

会議録 (おうみケアセンター認知症対応型デイ運営推進会議)

作成日 令和元年9月26日

期 日	令和元年9月26日(木)	14時00分～15時10分
場 所	青海保健センター	
出席者 (7名)	利用者・家族	1名
	地域代表者	1名
	市職員	1名
	包括職員	1名
	施設職員	3名

会議趣旨

議 題 (テーマ)	開 会 あいさつ
	自 己 紹 介
	地域包括支援センターおうみより
	認知症対応型デイの現状と課題について 質疑応答
	意見交換・質問
<p>1. 開会挨拶 (センター長)</p> <p>2. 自己紹介 (会議出席者の自己紹介)</p> <p>3. 地域包括支援センターおうみより</p> <p>○ 昨年の相談件数についての報告</p> <ul style="list-style-type: none">・ 相談件数 111 件中、70 件が認知症に関するものであり、内容としては受診拒否、権利擁護に関する事、介護者の認識に関する事などであった。・ 受診拒否について、現在青海地域では山本医院が能生国保診療所と協力・連携し、スムーズに認知症の検査や受診ができるよう取り組んでいる。・ 現在、ひとり歩き高齢者サポート事業の徘徊の事前防止に力を入れている。 <p>4. 認知症対応型デイの現状と課題の報告</p> <ul style="list-style-type: none">・ “おうみケアセンター 認知症対応型通所介護について” の読み上げを行い、出席者からの感想や意見、質問をお聞きした。・ サービス提供時の利用者の写真を見ていただき、日常の様子や季節行事の説明を行った。	

5. 質疑応答

出席者：レビー小体型認知症とはどのような症状がでますか？

スタッフ：個人差はありますが基本的な症状として、まぼろしというか、見えないはずのものが見える幻視や幻聴、歩行の一步目につまずいてしまうようなパーキンソン病の症状がみられます。夜間せん妄という症状も強いといわれています。

出席者：包括支援センターおうみさんから、相談件数についての報告があったが現在も相談・支援を継続しているケースもあるか？

包括職員：権利擁護に関する相談について、特に成年後見制度の保佐類型については本人の同意が必要になってくるので、支援が終了するまで数年かかることもある。

出席者：課題の②の正確な情報が伝わっていないというのはどういう事柄か？

スタッフ：認知症対応型デイサービスに行くと認知症がすすむという話を聞き、正確な情報が伝わっていないし、認知症についての理解も進んでいないと感じているということ。正確な情報をしっかりと伝えていかなければと思っています。

出席者：正確な情報が伝わっていないのであれば、地域や家族と一緒に認知症の方の情報を共有するアセスメントの方法としてセンター方式というのがあるので勉強会などを通じて、活用を検討してはどうか？

センター長：センター方式は家族の負担も大きいとききますが。

スタッフ：センター方式を含めたアセスメントの方法を検討して、正確な情報発信を行いたいと思います。

出席者：課題の③の生活スペースの不自由さとはどういったことか？

スタッフ：個人的には自宅のような環境で非常に良いと思っていますが、フロアの真ん中に職員や関係者の動線があることが利用者にとっての不自由さに繋がっていると思っています。

出席者：建物の構造上の問題ということですね。

スタッフ：そうです。しかし構造上の問題とはいえ、認知症の方はそういったことに敏感なことがあるので利用者に影響がないか心配しています。

出席者：課題の①の利用者減少の背景はどういうところにあると考えているか。認知症の方は増えていて、利用者はこれから増えていくとは思いますが。

スタッフ：認知症に対する認知度や理解が進んできていて、マスコミでも発信していることから、一般の方でも対応できるケースも増えているのかもしれない。正しい情報がなくて、デイサービスなんか行かせられないと思っているかもしれない。様々な背景が可能性として考えられると思います。

出席者：一般型デイサービスの利用者でも認知症の方はいらっしゃると思いますが、居宅介護支援事業所のケアマネージャーさんとしては、周辺症状の種類や認知症状の強弱などで認知症対応型と一般型のデイサービス利用とを区別しているということが考えられます。

スタッフ：施設入所が急に決まるということもありました。今年度になって2名、施設入所されてます。独居の方が自宅で生活するとなると、まわりの支援者が大変ということがあるみたいです。

出席者：良い方向に考えると、施設入所や在宅介護サービスの選択肢が増えてきているということじゃないですかね。

出席者：小規模多機能が利用しやすいというのはよくききます。

6. 情報交換

出席者：先日、徘徊センサーをやめました。2～3年使ったが今は徘徊というか家から出ていくことがほぼなくなったからやめました。非常に利便性は良かったですね。

出席者：福祉用具貸与で利用できますからね。

出席者：担当している地区の方で、家族から認知症かもしれないと言われて関わったが私の目からは認知症とは分からなかった。初期の認知症を見分ける方法というのはないものですか？

出席者：初期症状のみで見分けることは非常に難しいです。一般の方と医師や保健師

などの認知症を専門的に診ている方の視点は違うと思いますし。心配であれば、専門的な医師や保健師に見てもらうことが有効だと思います。

出席者：家族から見て、いつもの様子と違うというのであれば認知症を発症しているのかもしれないですが、見分けたあとどうするのかということも重要になってくると思います。専門的に診てもらうのか様子を見るのかは家族が決めることだと思いますが、もし支援が必要となれば包括支援センターに相談してもらえれば導入はスムーズにいくと思います。

出席者：近所にも徘徊というか、私の家まで来ては確認した後に戻っていく方がいらっしゃる。自分で戻っていくから徘徊というわけではないと思うが、どうしたらいいですか？

スタッフ：変化がありましたら、いつでも相談してください。

6. その他

スタッフ：課題に対して活発に意見交換していただきありがとうございました。

センター長：次回は3月に予定しております。よろしくお願いいたします。

以上